こどもの谷　Ⅱ期地区　点検日報(1)

定時点検時間目安　10:30　12:00　14:00

平成　　年　　月　　日（　　）曜日　天候　　記入者氏名　　㊞

施設名	実施時間	点検名	点検結果	異常ありの場合の内容
ビーバーダム・森の池	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			
さまよいの洞窟　トイレ	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			
さまよいの洞窟	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			
フワフワエッグ（オレンジ）	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			
マウントコニーデ	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			
溶岩すべり台（小）	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			
溶岩すべり台（大）	:	始業点検	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	:	定時・混雑・終業	異常あり・なし	
	特記事項			

ロープトウ安全点検

装置名		点検箇所	点検方法
線路	索条及びハンガー	①ロープの断線、損傷の状況	目視･計測
		②ロープの張りの状態	目視
原動装置	ギャードモーター	①運転中の異音、異常発熱、異常振動の状態	聴感･触感
		②歯車の噛み合いの状況	聴感
		③油量、油質の状況	目視
		④組付け状態	目視
	原動滑車	①滑車の回転状態	目視
		②滑車、軸等の変形、損傷、亀裂、溶接箇所のはく離の状態	目視
		③組み付けボルトのゆるみの状態	打検
		④滑車軸ボルトの状態	打検
	ﾌﾚｰﾑ・ガイド類	①部材の変形、損傷の状態	目視
		②溶接箇所のはく離、亀裂の状態	目視
		③組み付け、据え付けの状態	目視
緊張装置	緊張滑車	①滑車の回転状態	目視
		②滑車、軸等の変形、損傷、亀裂、溶接箇所のはく離の状態	目視
		③組み付けボルトのゆるみの状態	打検
	ﾌﾚｰﾑ・ガイド類	①部材の変形、損傷の状態	目視
		②溶接箇所のはく離、亀裂の状態	目視
		③組み付け、据え付けの状態	目視
		④緊張装置(レバーブロック)の作動状態	動作確認

ロープトウ設置撤去実施要領

第１条 設置撤去の時期

撤去作業は、毎年、４月１日～４月19日の間に行うこと。

設置作業は、毎年、11月11日～12月22日の間に行うこと。

第２条 作業内容

１．第１ロープトウ設置作業

・虹の巣ドーム内倉庫（状況により山麓小屋）にある山頂支柱（１基)、中間支柱（２基)、山頂滑車（１基)、ロープ（１巻)、山頂支柱固定用チェーンブロック（１基)、アンカーロープ（１本）をローンスタジアムまで運搬すること。

・山頂支柱及び、山頂滑車を設置すること。

・既存アンカーと山頂支柱をアンカーロープ及びチェーンブロックにて固定すること。

・夏季の間、養生してあった山麓支柱及び原動機を適正な位置にすえつけること。

・中間支柱を設置すること。

２．第２ロープトウ設置作業

・資材置場にある山頂・山麓支柱（２基)、山頂・山麓滑車(２基)、ロープ(１巻)、アンカーロープ(２本)、山麓支柱固定用チェーンブロック(チンホール１基)、山頂支柱固定用ターンバックル(１基)、原動機(9.2KW／1基)、制御盤(１基)、非常停止釦スタンド(１基)、乗越検出装置(１基)、ハンガー(ノーマル11個・ジョイント用ハンガー１個)、ハンガーガイド(１基)をローンスタジアムに運搬すること。

・山頂、山頂支柱および山頂、山麓滑車を設置すること。

・既存アンカーと山麓支柱をアンカーロープ及びチェーンブロック(チンホール)にて固定すること。

・既存アンカーと山頂支柱をターンバックルで固定すること。

・原動機を設置すること。

・ロープを山麓滑車及び山頂滑車にかけ、ジョイントハンガーにてスプライス(結合)させること。

・制御盤を設置すること。

・運転操作盤を設置すること。

・ハンガーガイドを設置すること。設置する際、ロープとの当たりに留意すること。

・ハンガーを設置すること。設置数、設置間隔は下記のとおりとする。

a) ハンガー設置数…12基(片側6基、ジョイントハンガー含む)

b) 設置間隔……26m毎

・乗越検出装置を設置すること。

・非常停止押しボタンボックスを山麓山頂に設置すること。

※第１、２ロープトウ山頂山麓滑車のゴムライナーの交換を行うこと。

３．試運転―安全点検

・上記作業が終了した後、各ロープトウにおいて試運転―安全点検を実施すること。

第３条 撤去作業

１．第1ロープトウ撤去作業

・第1ロープトウの下記の部材について、取り外したうえで虹の巣ドーム内倉庫(状況により山麓小屋)に運搬し、山麓支柱にブルーシートにてカバーをかけ養生すること。

a) ワイヤー b) 中間支柱…２本 c) 山頂滑車及びカバー d) 山頂支柱

e) 山頂支柱固定ワイヤー及びチェーンブロック

f) 巻き込み防止装置及び付属ケーブル g) 非常停止ボタン

h) 非常停止電源用ケーブル i) Tバーフック回収スタンド

j) 運転換作盤及び付属ケーブル

２．第２ロープトウ撤去作業

第２ロープトウのワイヤー、滑車(山頂・山麓)、支柱(山頂・山麓)、原動機、ハンガーを資材置場に搬出するものとする。

第４条 作業にあたっての注意事項

１．作業の前に、床、壁、機器などを損傷や支障を与えないように養生を行うこと。

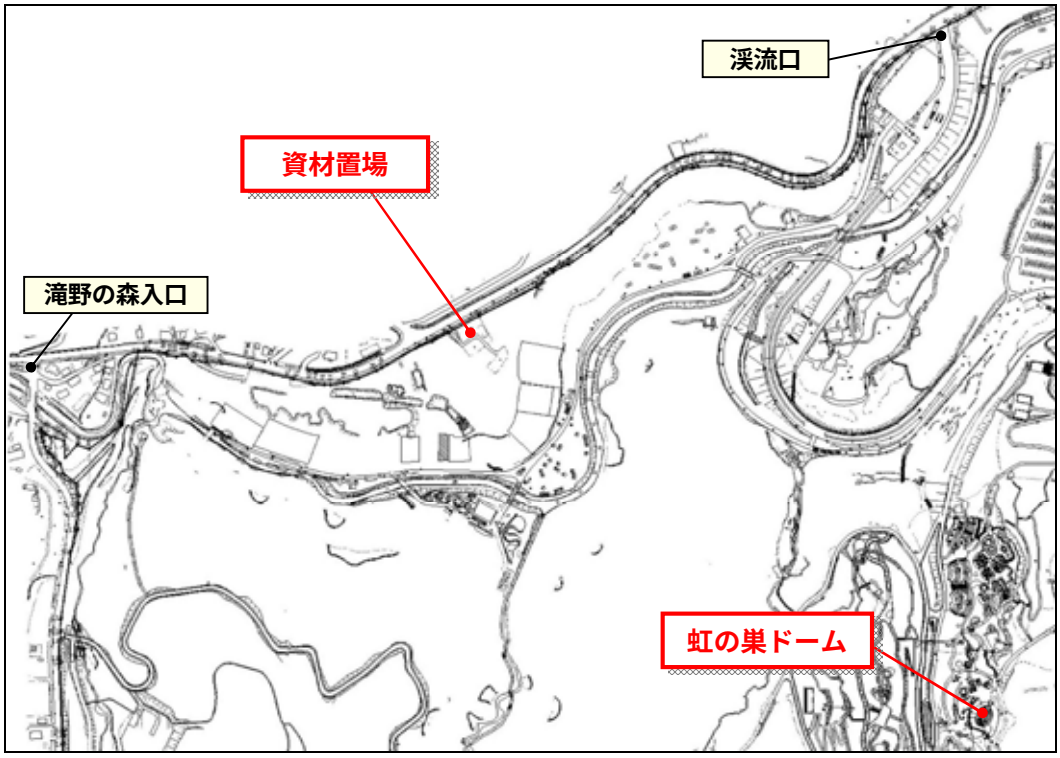
２．作業終了後は、養生材や工具の撤去、床、壁、機器などを清掃すること。

３．事業者は、管理する施設、設備及び備品等について異常が発生したとき又は異常を発見したときは直ちに調査職員等に報告すること。

４．重機等を使用して作業する場合は、積雪状況にあわせて、コンパネ等を敷設し、芝生の養生に努めること。

第５条 点検作業

第１ロープトウ・第２ロープトウを月１回点検すること。



ロープトウ保管位置図

国営滝野すずらん丘陵公園

ロープトウ取扱説明書

スカイバードリフト運転取扱注意事項

○当リフトを運行させる前には、計画通り人員を配置し、起点・終点停留場及び線路に積雪、障害物が無いかを良く確認し、安全に運行できる環境を確保してから運行にあたって下さい。

○当リフトは一般供給電源を利用して運転しますので、運転前に１次側キュービクルのブレーカーをＯＮにし、リフト運転盤内のブレーカーを上げて（ＯＮの状態にして）下さい。また、運転盤内ブレーカーを先に上げた状態で後から１次側電源を作動させると運転盤内のインバーターに悪影響を及ぼしますので、必ずブレーカーを下げた状態で一次側電源を作動させて下さい。

○受電確認後、コントローラーを使ってリフトを運転します。まずＦＷＤのつまみをＯＮにし、速度調整つまみで徐々に速度を上げます。速度を上げてからしばらく（５分以上）回してみて異音、異臭等の異状が無いかを確認してから乗客を乗車させて下さい。特に寒い日はオイルがなじむまで充分回して下さい。

○当リフトはラフティングソリのみの搬送となっておりますが、ラフティングのみを搬送させる場合は、得られる荷重が少なく、フックが外れる可能性が高くなりますので、特に線路上の凹凸を無くすように整備をして下さい。その状態を確保した後、ゆっくりティーバー搬器のフック金具をワイヤーにかけて下さい。金具のワイヤー握索部の近くを持ってかける作業をすると手袋を巻き込まれる可能性がありますので、握索部からなるべく離れた箇所を持って作業にあたって下さい。

○終点ではラフティングソリがスムーズに降りられるようスロープを作り、常に最適な傾斜を保つよう整備して下さい。

○ラフティングの利用客には、滑走前に握索（フック）金具をラフティングソリ前部にある収納装置に入れてから滑走するように指導して下さい。金具を外に出したままの滑走は危険です。

○人間の集中力や忍耐力には限界があります。特に吹雪等厳しい気象条件の時などは係の方のローテーションをできるだけ短時間に行って下さい。

○リフトを運行すると必ずワイヤーが伸びてきます。ワイヤーがスリップしたり、著しく地面につくようになりましたら、終点停留場の緊張装置（レバーブロック）を引いて調整して下さい。

○リフト運行終了後は実線側（上り線）ワイヤーを空線側（下り線）に設置してある中間ポールフックに掛けて、降雪時に実線側ワイヤーが雪の下にならないようにして下さい。また運行再開時には必ず取り外しして下さい。

○リフト運転終了後は起点停留場にあるコントローラーの速度調整つまみを０にして、運転盤内のブレーカーを下げて下さい。コントローラー及びモーターには、専用のカバーを必ずお掛け下さい。

○担当の係員以外の者が運転しないように運転盤の鍵は必ず掛け、きちんと保管して下さい。

○習熟後の油断にはお気をつけ下さい。モーターで強いトルクを発生させている回転物ですので、注意を怠ると人命にかかわる事故が起きる可能性が充分にあります。運行中は係員以外の方をむやみに近づけないで下さい。

今後スキーヤーやラフティングソリに人を乗せて利用する場合

○スキーヤーを乗車させる際は、スキー板を線路に対し平行に揃えさせ、ティーバー搬器のプラスチックバーがお尻に対し平行にかかるよう調整し、ストックをワイヤーと逆側の手にまとめさせて下さい。ラフティングソリに乗客を乗せて搬送する場合は、利用者をチューブの中央部に乗るようにさせ、乗車中に足が雪面に着かないように状態を整えさせて下さい。それらの状態を確保した後、ゆっくりティーバー搬器のフック金具をワイヤーにかけて下さい。